

## 令和7年度 学校評価 青垣小学校パワーアッププラン

### 1 目標・方針

中期的な学校運営の 目標・方針	① ふるさと青垣を愛し、自らの生き方を考える子 ② しっかり考え、自ら学び続ける子 ③ 自他ともに大切にし、最後までやり抜く子
本年度の重点目標	○地域・家庭との連携の推進 ○確かな学力の向上に向けた授業改善 ○児童会活動や異年齢活動、たんばふるさと学を通した生き方教育の推進

### 2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	地域との連携	たんばふるさと学	A	今年度も、町探検や間伐体験、川の生き物調査や丹波布の学習など、地域の様々な場所に行き実際に学習をしたり、たくさんのゲストティーチャーから学んだりする機会を多くもつことができた。「地域とのふれあいを通して、青垣の宝（自然・文化・人）に興味を持って学習している。」と回答した児童が90%を超えていることから、ふるさとの魅力を知り、関心を持つことにつながっていると考える。しかし、保護者回答では肯定的な評価が75%と児童回答と少し差がある。学年通信を通して学習の様子を伝えたり、保護者の活動への参加も呼びかけたりするなど、今後も保護者・地域を巻き込んだ活動に取り組み、より青垣の魅力が詰まった学習にしていく必要がある。
	保護者との連携	家庭学習	B	家庭学習ガイドを基に、職員で宿題の内容や取り組み方について話し合い、評価等を共通理解して指導にあたった。学年懇談会で保護者にも家庭学習ガイドについて説明し、家庭学習の仕方を保護者と確認することで連携を図った。今年度は家庭学習ウィークを年間4週行い、保護者に家庭学習の支援を求めたところ、多くの保護者から児童の家庭学習に温かい励ましのコメントをいただいた。「めあてを持って毎日の宿題に取り組んでいるか。」という質問には85%の児童が肯定的に回答しており、昨年度より増加しているが、保護者は64%と昨年度より減少している。今後は、さらに児童が目的意識を持って取り組んだり、自ら考えて学習に向かったりできるよう働きかけをしていく。また、家庭学習ウィークを中心として保護者に家庭学習の進め方について啓発をしていく。
教育課程	指導方法の工夫・改善	授業づくり	B	「自ら挑戦し続ける子」を目指して、一人ひとりを大切に集団づくりを基盤にしながら、対話を通して主体的で協働的な学びが生まれる学習活動を意識して授業展開の工夫を行った。月ごとの「学習のめあて」や「振り返りシート」等を活用し、教師と児童が同じ目標を持って学習に向かうことができるようにした。また、主体的・協働的に学ぶ力や自分の学びを調整する力の育成を目指した。タブレット端末を授業中や授業外で積極的に活用させたり、自由進度学習を取り入れたりすることで、児童一人ひとりの理解度やニーズに合わせた学習活動になるよう授業改善に取り組んだ。「授業中、自分の考えを持って発表したり、友だちの意見を聞いたりして学習しようとしているか。」という質問には89%の児童が肯定的に回答しており、一定の成果が見られる。今後は、子どもを主体にした授業づくりを継続しながら、オープンスクール等の機会をもとに、児童の学びの姿を知っていただき、通信や懇談などで児童の成長や頑張りや保護者にも伝えていく。
	学習習慣の確立	脳活  読書活動		今年度も、全学級で朝チャレや眼の体操、足育などの「脳活」の取り組みを進めていくことができた。児童への質問では、70%が「目が覚めたり体がすっきりしたりする」と肯定的に答えており、効果を実感していることが分かる。保護者への質問では、58%が「日常的に体を動かす機会がとれている」と回答したが、十分に確保できていない家庭もあり、今後の課題となっている。教師は87%が「体や目、足の働きの重要性を理解し、指導できている」と回答しており、教職員の意識は高い。今後は、保護者の脳活への理解と関心をさらに高めることが重要である。子どもたちが脳活に取り組む様子や家庭でできる簡単な運動を「Let's脳活（脳活通信）」を発行することで伝えたり、学年懇談会等の機会に学校の取組を啓発したりすることを通して、家庭でも取り組みやすい環境づくりを進めたい。学校と家庭が連携することで、子どもたちの脳活の効果がより高まっていくと考える。 今年度も、地域の方々の読み聞かせ活動をはじめ、図書館からの月1回の貸し出し、図書委員会による読書活動推進の取組、読書マイスターへの参加に加え、昼の読書タイム（13:15～13:30）も定着しており、読書習

		メディア	B	<p>慣が身につくような取組を継続して行った。また、学校図書サポーターにも図書室の環境整備を継続してお世話になるなど、様々な取組を通して本に触れる機会を持っているが、「学校や家でいろいろな内容の本を読んでいる。」と回答した児童は59%となった。また、保護者回答では肯定的な評価が33%であったことから、家庭での読書量にも課題が見られる。今後は学校でも家庭でも、さらに読書の機会が増えるように、昼の読書タイムでの教師による読み聞かせの設定や電子図書の活用等を工夫していく。</p> <p>今年度もメディアコントロール週間を学期に一度設定し、家庭でのルールの見直しをしたり、学校でもメディアに触れずに過ごしたりする機会とした。「ルールを決めて、テレビやインターネットを見たり、ゲームをしたりしていますか。」という質問に肯定的に回答した児童は75%、「お子さんは、電子メディアに触れる時間について、家庭で決めたルールを守っていますか。」という質問に肯定的に回答した保護者は50%であり、いずれも昨年度より減少しており、児童と保護者間の認識の差も大きい。メディアの適切な使用方法について具体的に指導を続けるとともに、メディアコントロール週間を通して保護者とも連携しながら取組を継続する必要がある。</p>
課題教育	人権教育	いじめゼロ あったか言葉	A	<p>「友だちを大切にしていますか」の質問に対して児童97%、保護者96%が肯定的な評価をしている。いじめに対する理解が深まり、人権意識が家庭を含めた生活環境の中で高まっていることがうかがえる。しかし、「あまり思わない」に回答している保護者も4%いる。今後はさらに、いじめゼロ、そして人権が尊重される学校を目指して、学期に1回の人権朝会を継続しながら日々の生活を振り返り、誰もが幸せに過ごすことができるよう取組を進めていく。</p> <p>「あったか言葉を使って、よい友だち関係を作ろうとしていますか。(挨拶もあったか言葉)」という質問に対して児童94%、保護者86%が肯定的な評価となった。保護者は昨年度より4%下がったものの、例年、児童・保護者ともに高い数値の結果が出ている。保護者が学校と連携し、温かく児童の様子を見守っていただいている成果だと感じる。引き続き、個に応じた指導やきめ細やかな支援を継続し、一人ひとりが大切にされ、安心して過ごせる学校をめざしたい。</p>
	特別支援教育	相互理解	A	<p>「自分の良さも友だちの良さも大事にしながら、友だちと協力している。」という質問に94%の児童が肯定的な回答をした。保護者においても「自分の良さも友だちの良さも大事にしながら友だちづくりをしようとしている。」という質問に、94%の肯定的な評価が得られた。児童一人ひとりの個性や特性への理解が広がり、互いを認め合い安心できる居場所作りにつながってきていると考える。今後も、日々の教育活動の支えとして、保護者、教職員、関係機関との連携をしっかりと取り、児童の自立と社会参加を見通したキャリア形成を行っていきたい。また、啓発等を通して、互いのことを正しく理解し合い、全ての児童の居場所づくりができるよう努めていきたい。</p>

### 3 学校関係者評価

- ・友だちを大切にする心、自然の中で興味を持って学ぼうとする心が育っていることを実感する。
- ・子どもたちが、地域の大人とつながりを持って学習し、地域の魅力に気づき、関心を高めることは、丹波を離れて生活しても、地元に興味や関心を持ち続けることにつながる。このことにより、将来の関係人口として、地域に関わってもらえる可能性が高まる。
- ・ITを活用した授業は、視覚的に理解しやすく、興味を引き出す点で大きな力を発揮している。あわせて実際に手を動かし、体験し、五感を使って学ぶ「直接体験」の価値も引き続き大切にするこことで、より深い学びが実現する。
- ・脳の活性化を促す取組が、学習意欲や集中力、学力の向上にどのような影響を与えていくのか、大変興味深い。これらの活動が子どもたちの成長にどのように結びついていくのか、今後の変化に期待したい。
- ・読書活動、メディアについては、子どもだけにルールを課したり、負担をかけたりのではなく、親子で楽しく一緒に取り組める活動があれば良い。

### 4 次年度の改善の方向性

次年度、本校は統合10年の節目を迎え、大きな転換期となる。昭和63年に『生涯学習のまち・青垣』宣言をし、人権を根底に据えた地域づくりを生かした、子どもと大人がともに学び合う「地域とともにある学校」の歩みをさらに発展させるため、これからの10年の基盤整備を進める。すべての人の尊厳を大切にする青垣地域コミュニティ・スクールにおいて、「自分の生き方」「生命の尊さ」を考える機会を設け、生涯学び続け、人権意識を高揚して自己実現を図るキャリア形成に取り組む。「青垣小学校で子どもを学ばせたい」、「青垣地域で子どもを育てたい」という保護者、地域の方の思いに寄り添えるよう、特別支援、多文化共生の課題解決や協働的な学びの充実に取り組む。

令和8年3月17日

学校名 丹波市立青垣小学校

校長名 植木 政行